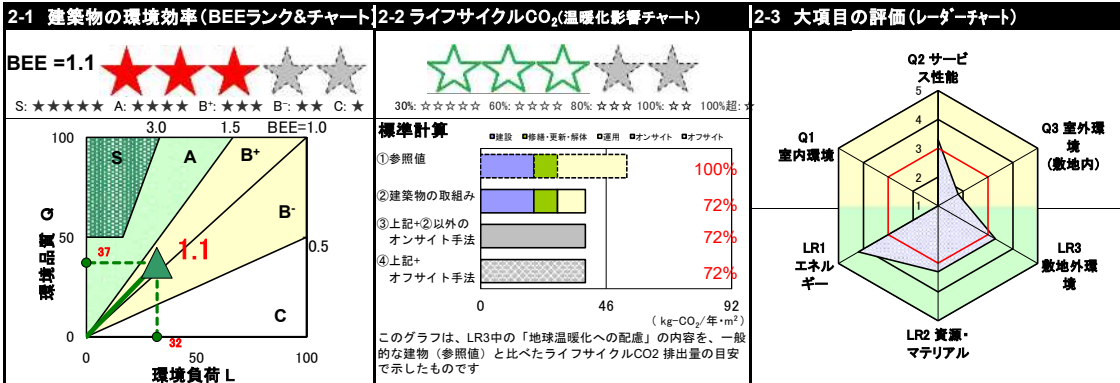
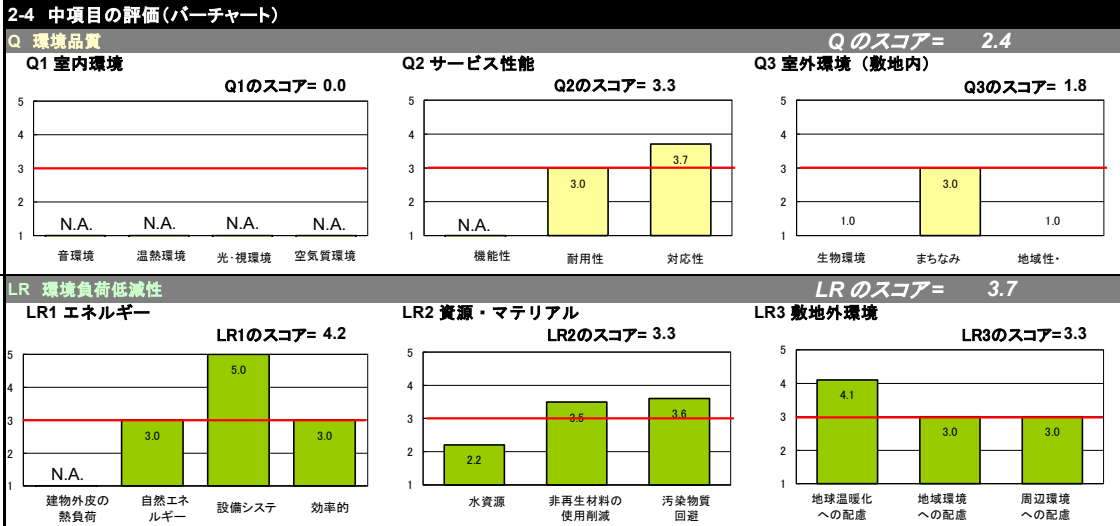


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中央発條(株)藤岡工場 第12工場	階数	地下0階地上1階
建設地	愛知県豊田市深見町向洞1071-1 他9筆	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	14 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,040 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年5月 予定	評価の実施日	2026年7月21日
敷地面積	7,297 m ²	作成者	東 雅之
建築面積	4,529 m ²	確認日	2026年7月23日
延床面積	4,510 m ²	確認者	東 雅之



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.1	1.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.3	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

外なる環境活動を応用しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
中央発條(株)藤岡工場 第12工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		重点項目						評価点		評価点		重み係数	
Q 建築物の環境品質												2.4	
Q1 室内環境												-	
1 音環境												-	
1.1 室内騒音レベル								3.0		-		-	
1.2 遮音								-		-		-	
1								-		-		-	
2								-		-		3.0	
3								-		-		3.0	
4								-		-		3.0	
1.3 吸音								-		-		3.0	
2 温熱環境								-		-		-	
2.1 室温制御								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
2								3.0		-		3.0	
3								3.0		-		-	
2.2 湿度制御								3.0		-		3.0	
2.3 空調方式								3.0		-		3.0	
3 光・視環境								-		-		-	
3.1 昼光利用								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
2								-		-		-	
3								3.0		-		3.0	
3.2 グレア対策								-		-		-	
1								5.0		-		3.0	
3.3 照度								3.0		-		3.0	
3.4 照明制御								3.0		-		3.0	
4 空気質環境								-		-		-	
4.1 発生源対策								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
4.2 換気								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
2								3.0		-		3.0	
3								3.0		-		3.0	
4.3 運用管理								-		-		-	
1								3.0		-		-	
2								3.0		-		-	
Q2 サービス性能								-		-		3.3	
1 機能性								-		-		-	
1.1 機能性・使いやすさ								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
2								3.0		-		3.0	
3								3.0		-		-	
1.2 心理性・快適性								-		-		-	
1								3.0		-		3.0	
2								3.0		-		-	
3								3.0		-		-	
1.3 維持管理								-		-		-	
1								3.0		-		-	
2								-		-		-	
2 耐用性・信頼性								0.5		3.0		0.52	
2.1 耐震・免震・制震・制振								0.4		3.0		0.48	
1								3.0		3.0		0.80	
2								3.0		3.0		0.20	
2.2 部品・部材の耐用年数								0.3		3.3		0.33	
1								-		3.0		0.23	
2								-		3.0		0.23	
3								-		5.0		0.09	
4								-		3.0		0.08	
5								-		4.0		0.15	
6								-		3.0		0.23	
2.4 信頼性								0.1		2.6		0.19	
1								3.0		3.0		0.20	
2								3.0		2.0		0.20	
3								3.0		3.0		0.20	
4								3.0		3.0		0.20	
5								3.0		2.0		0.20	

3 対応性・更新性					0.4	3.7	0.48					3.7
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	階高=9.82>3.9		-	5.0	0.60		3.0	-			
2	空間の形状・自由さ	外壁の長さ比率=0.068<0.1		3.0	5.0	0.40		3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-			
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38			-	-		
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	-		
3	電気配線の更新性	天井仕上材なし		3.0	5.0	0.11			-	-		
4	通信配線の更新性	天井仕上材なし		3.0	5.0	0.11			-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22			-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	-	0.57		-	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40		-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	1.0	0.30	-	-	-	-	1.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④			-	1.0	0.50		-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上				-	1.0	0.50		-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-		-	-	-	3.7
LR1 エネルギー						-	0.40		-	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-		-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13		-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.4	3.0	5.0	0.63		-	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25		-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	-	
4.1	モニタリング				-	3.0	-		-	-	-	
4.2	運用管理体制				-	3.0	-		-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	-	-	3.3
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15		-	-	-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40		-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.5	0.63		-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			② 独自		-	3.0	0.07		-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.21		-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	3.0	0.21		-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	躯体+LGS+ボード(断熱材はGW敷き込み)/OAフロア	3.0	5.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	-	-	
1	消火剤				-	-	-		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	-	5.0	0.50		-	-	-	
3	冷媒				3.0	3.0	0.50		-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率72%	-	4.1	0.33		-	-	-	4.1
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				燃焼設備を使用していない	-	5.0	0.25		-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50		-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25		-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自			-	3.0	0.25		-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自			-	3.0	0.25		-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25		-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	-	-	
1	騒音	独自			-	3.0	1.00		-	-	-	
2	振動	独自			-	-	-		-	-	-	
3	悪臭				-	-	-		-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	-	-	
1	風害の抑制				-	3.0	0.70		-	-	-	
2	砂塵の抑制				-	3.0	-		-	-	-	
3	日照阻害の抑制				-	3.0	0.30		-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策				-	3.0	0.70		-	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30		-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE: 建築(新築)2016年版+あいち版手引き

中央発條(株)藤岡工場 第12工場

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10		
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22		
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 中央発條(株)藤岡工場 第12工場

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー性能向上かつ近隣環境への負荷低減に努めている。
Q1 室内環境	居室エリアのない工場用途のため評価対象外
Q2 サービス性能	階高を高くし室内環境にゆとりを持たせ、空間の自由さを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	工場内建屋と外壁仕様を同等とすることで、建屋のバランスを調和させた。
LR1 エネルギー	照明器具算定においてLED照明器具を採用。
LR2 資源・マテリアル	建築資材の使用量削減や資源の再利用可能な設計とし、資源の有効活用に配慮した。
LR3 敷地外環境	照明は光害対策ガイドラインのチェックリストにて確認済。
その他	廃棄物の分別収集、分別監視、専門工事別回収をすることにより廃棄物発生抑制に努めます。